竹パウダーで生ごみリサイクルと里地里山保全

ダンボールコンポストをはじめよう

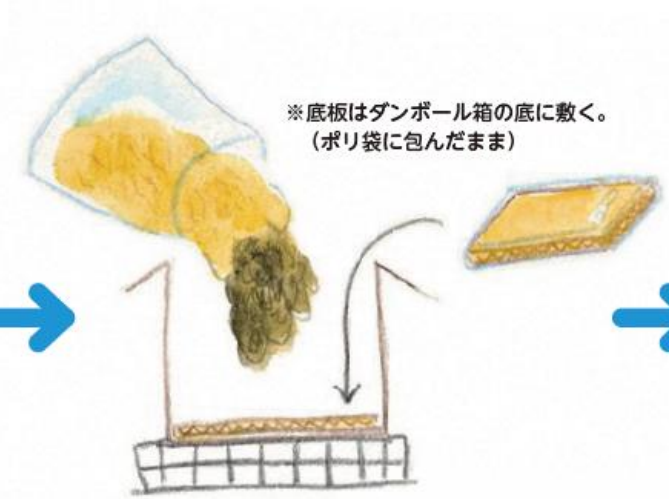


ダンボールコンポストの基材は、竹パウダーとくん炭です。私たちの住む多摩地域の竹パウダーを使用しており、里地里山の保全活動にもなります。

ダンボールコンポストセットの製作・配達は、障害福祉サービス事業所「ふらっと・すずかけ」等で行っており、就労支援に繋がっています。

日野市　環境共生部　ごみゼロ推進課







1 自分で用意するもの

●風通しをよくする台
（花屋に置いてある苗カゴが便利）

●ゴム手袋やシャベル
（ダンボールを傷つけないようにプラスチック製やへらなど先が丸いものがおすすめ）

●温度計
（発酵している温度がわかります）

セットに入っているもの

・ダンボール箱
・基材15ℓ（竹パウダー9ℓ／もみ殻くん炭6ℓ）
・布カバー　(虫除け用)
・底板（ポリ袋に包んだまま使用）

2 はじめる前の準備

●ダンボール箱の底に底板を敷く。

●基材が袋に入っている状態で、水を500㎖入れてかき混ぜる。

●基材をダンボール箱に入れ、基材や水分が均等になるようにかき混ぜる。

●下からの風通しをよくする台に乗せる。
（カゴのようなもの）

●雨のあたらない風通しのよい場所に置く。
（雨が吹き込む場合は、雨の時だけビニールシートなどをかぶせます。）



3 生ごみを入れましょう

●真ん中に生ごみを入れるくぼみををつくる。

●生ごみをくぼみに入れ、基材をまぶす。
※コツは「真ん中埋め」。全体をかき混ぜると、分解が遅くなります。

●まわりの基材をかぶせる。

●布カバーをかぶせる。(虫の侵入を防ぎます)

〈投入の際の注意〉
・生ごみは細かくしておくと分解が早い
・水切りは不要
・投入量は1回500gが目安（キャベツの玉の半分が約500g。これより少なくてOK）
・生ごみを入れない日があってもＯＫ
・貝殻や鶏の骨、腐っているものは入れない



4 次の生ごみを入れる前に

●基材をよくかき混ぜ、空気を供給します。
→空気を供給することで微生物による分解を促します

〈投入後の注意〉

●白いカビがでるのはうまく発酵している証拠！
●外気温以上の発酵熱がでれば順調に分解しています
（夏は50℃以上、冬は10℃以下になることもあります）

5 生ごみを入れられなくなる目安

●基材にゴロゴロとかたまりができるようになったり、分解が遅くなってきたりしたら、生ごみの投入は止めましょう。目安は生ごみを入れてから3～5か月
（生ごみの投入量により変わります）。

6 熟成

基材を別のダンボール箱などに移してフタをし、約1～2か月間熟成させます。

〈熟成中の注意〉

●熟成中も1～2週間に一度くらい水を加えてかき混ぜ、しっとり気味を保つ。生ごみがほとんど目では確認できないくらい完全に分解し、さらさらになれば完熟たい肥のできあがり。

ダンボール箱は、上手に使えば再使用も可能です。空いたダンボール箱に新しい基材を入れて生ごみリサイクルを新たにスタート！

\ ポイント /

ダンボールコンポストは目に見えない微生物が生ごみを分解します

・微生物は水分率50～60％で働きやすいため、乾燥気味の時には水を補給します。しっとり気味を保ちましょう。★裏面参照
・冬季は微生物の活動が鈍くなり分解が遅く温度も上がりませんが、分解はゆっくり進んでいます。
できるだけ暖かい場所に置き、一握りの量の米ぬかや天かす、コップ１杯程度の廃食油などを入れると温度が上がります。
・虫の発生を防ぐため必ず布カバーをして下さい。

完熟たい肥の使い方

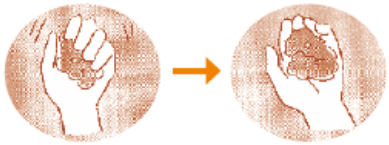
・たい肥：土＝１：４の割合で使用
・一度使った古い土でも、たい肥を混ぜることで再利用できます。
・追肥としても使えます。



よくある質問

水分率50%～60%の目安

基材をぎゅっとにぎって開くと、団子状の基材が2つに崩れるくらいが良い状態。



ギュッと握りしめる　　手を広げると2つくらいに崩れる

使用中のダンボールコンポストの様子



始めて間もない頃。



３か月以上使用。生ごみ投入総量40kg以上。基材の色が濃くなりかたまりも見られます。生ごみの分解が遅くなっているようでしたら、生ごみ投入を止めましょう。熟成させて、たい肥へ。新しい基材でダンボールコンポストを始めましょう。

Q 入れてはいけないもの

A　基本的に生ごみ以外のプラスチック類や紙類、煙草の吸い殻など微生物が分解できないもの。貝殻や鶏の骨なども分解が遅いため入れないでください。

　魚の骨や頭は入れてもOKです。柑橘類の皮は油脂分を含み発酵を促進しますので、小さく切って入れるとよいです。卵の殻はつぶして細かくすれば大丈夫です。

Q 分解が遅いときは

A　生ごみの水分率は約90%と多く、生ごみを入れすぎると水分量が上がり分解が進まなくなります。その場合は乾燥した基材や米ぬかを足してよく混ぜてください。逆に、乾燥しすぎても分解が遅くなりますので、水分を足しましょう。分解が遅いときは、米ぬかや天かす、廃食油などを入れると温度が上がります。

Q 虫の発生を防ぐには

A　布カバーをして虫の侵入を防ぎましょう。布カバーに卵を産みつけている場合が多く、布カバーをはずす前に、ハケなどで布カバーやその周りをよく掃いておくと、卵がダンボールコンポストの中に入るのを防げます。布カバーの上に虫取り粘着テープを置いておくのも効果的です。

　もし虫が発生してしまったら、その基材を全て大きなビニール袋に移し替え、袋ごと天日干しをすると死滅します。

購入について

◆価　格（配達料込）

●ダンボールコンポストセット

補助金適用で
2,440円 → **500円**

●基材のみ

補助金適用で
1,045円 → **250円**



◆補助金を適用しての購入可能数

●ダンボールコンポストセット
年度で１人２つまで

●基材のみ
年度で４つまで

上手に使えば、ダンボール箱は再使用も可能です！その時は基材のみの購入でOK！

布カバーも繰り返し使えます（セットから布カバーを外す注文も可）。

◆申込先

日野市立石田環境プラザ（月曜・年末年始休館）
電話/FAX：042-584-3317
E-Mail： ishidakankyo@air.ocn.ne.jp
※電話が難しい場合、FAX・E-Mailをご利用ください。

配達は「ふらっと・すずかけ」が行います。
配達日は電話でお知らせします。℡042－594－9320

たい肥回収サービス

生ごみたい肥は、畑や花壇で活用できますが、使用されない方は、基材購入時にお引き取りしますので、お申し出ください。